

# 松本地域戦略会議（第2回）議事録

○ 日 時 平成 25 年 2 月 27 日（水） 午後 1 時 30 分から 3 時 5 分

○ 場 所 長野県松本合同庁舎 502 号会議室

○ 出席者

座 長	松本地方事務所 北原所長	
委 員	松本市 寺沢政策部長（市長代理）	塩尻市 小口市長
	安曇野市 宮澤市長	麻績村 高野村長
	生坂村 藤澤村長	山形村 百瀬副村長（村長代理）
	朝日村 柳沢総務課長（村長代理）	筑北村 飯森村長
	松本保健福祉事務所 鳥海所長	松本建設事務所 手塚所長
	安曇野建設事務所 油井所長	
ワザパー	松本広域連合事務局 小林事務局長	
	中信労政事務所 臼井所長	松本農業改良センター 小穴所長
	中信教育事務所 生島所長	

## 1 開 会

（小林松本地方事務所副所長）

本日は、お忙しい中をご出席いただき、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第2回松本地域戦略会議を開催させていただきます。

それでは、会議の開催に当たりまして、はじめに北原 松本地方事務所長からごあいさつ申し上げます。

## 2 あいさつ

（松本地方事務所 北原所長）

皆さんこんにちは。

昨日の夜半から雪が心配されていましたが、この地域はおかげさまでたいしたことなく、高速道路も動いており、良かったと思います。

本日は、「第2回松本地域戦略会議」を開催しましたところ、お忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。

この松本地域戦略会議は、松本地域の持つ個性や魅力を活かした政策のあり方や方向性を県と市村が一体となって検討し、地域で取り組むべき施策等をまとめた地域ビジョンを策定し、推進することを目的として設置させていただいたものです。

設置をご承認いただいた第1回会議からこれまでの間、市村及び県の実務担当で構成する幹事会の場等において、地域が抱える広域的な課題の整理から、目指す方向性や重点的に取り組む施策などについて意見交換を重ね、地域ビジョン策定に向けた具体的な検討を行ってまいりました。

本日は、これまで幹事会で検討を重ねてきたこの「松本地域ビジョン」の原案をお示しさせていた

だき、ご協議いただきたいと考えております。

本日の会議で地域ビジョンをご承認いただいた後は、この地域ビジョンに添った具体的な施策を推進するため、幹事会等の場において、より具体的な取組を検討したり、また、個別の施策を総合的に調整したりしながら、地域の課題解決に向けて市村とともに一緒になって、取り組んでいきたいと考えているところでございます。

松本地方事務所といたしましても、今回の地域ビジョンに位置付けた取組や地域戦略会議で議論された事項につきましては、知事に対して直接、施策を提案する「地方事務所長からの施策提案」制度や、「地方事務所長総合調整推進費」等を活用するなどし、事業の推進に向けて、迅速かつ柔軟な対応をしてまいりたいと考えております。

最後になりますが、本日、各市村長の皆様からのご忌憚のないご意見をいただいた上で、松本地域ビジョンを決定してまいりたいと考えております。そして、この地域ビジョンの策定によって形成される共通認識の下、これまで以上に市村と県が連携を密にし、地域の発展のために取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。開会に当たってのあいさついたします。

本日はよろしく願いいたします。

(松本地方事務所 小林副所長)

本日の出席者につきましては、お手元にお配りした名簿のとおりでございます。

なお、配席につきましては、順不同となっておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

また、本日のこの会議につきましては公開で行うこととしております。会議の模様につきましては、後日、松本地方事務所のホームページに議事録として掲載する予定ですので、ご承知おきください。

なお、議事録を作成する都合上、大変恐縮ではございますが、ご発言される場合はお近くのマイクをお使いいただきますようお願い申し上げます。

それでは、これより議事に入ります。進行につきましては、北原地方事務所長が務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

### 3 議 事

(松本地方事務所 北原所長)

それでは、次第に従いまして、進めてまいります。

「(1) 地域ビジョンの策定について」事務局から説明をいたします。

(松本地方事務所地域政策課 石澤課長補佐兼企画振興係長)

資料1、資料2-1及び2-2に基づいて説明

(松本地方事務所 北原所長)

事務局より駆け足ですが説明させていただきました。ただいまの説明につきまして質問等ございましたらお願いいたします。

(松本市 寺沢政策部長)

松本市の政策部長の寺沢と申します。市長に代わって出席させていただきました。松本市から2点ほど、要望といいますか、位置付けを、どちらかに入れていただければということもありまして、お願い事項でございますが、挙げさせていただきます。

最初に、交流促進についてですが、特に松本地域は観光資源等を豊富に持っている地域で、各市村とも特長ある取組をさせていただいているところでございます。例えば、松本市では「3ガク都」ということで、学問・山岳・音楽という中で、特に文化的なイベント等につきましても積極的に取組をさせていただいております。具体的には、サイトウ・キネン・フェスティバル、工芸の5月、クラフトフェアという形で芸術に関する取組をさせていただき、また、隣の塩尻市さんにつきましては、ワイン、木曾漆器、高ボッチ高原などの資源を活かした取組がなされております。さらに、安曇野市さんにつきましても、大王のわさび祭り、安曇野の花火など魅力的な取組をしながら、全県にその取組を広げているという状況です。

松本地域といたしましては、1年間を通じて地域の交流人口を増やししながら、県内全域に進展していくような取組をしているところでございますので、そのためにも外からの交通ネットワークを充実させていただきながら、また、地域のこうした取組状況をご確認いただき、長野県としましても積極的に地域の活動に対する取組の位置付けをお図りいただきながら、また、地域でのイベント育成についても県としての積極的な関与をしていただきたいと思いますと考えているところでございます。

もう1点ですが、今回、この中には位置付けがございませんが、産業廃棄物処理の関連でございます。これにつきましては、松本市として地元県議会議員の皆さんを通じ、県へ要望等をさせていただいているところでございます。特に、この中信地域は最終処分場が逼迫しているという状況がございます。これから新しい街を建設していくという場合、産業廃棄物に関して適切な処理は欠かせない状況でございます。そうしたことから産業廃棄物処理に関する行政庁として、施設及び周辺の化学物質等の調査、また、特に処理事業者に対しての指導を強化させていただきながら、住みよい街づくりの中に、景観も大事にしながら、貢献していただけるような文言の整理をお願いします。

(松本地方事務所 北原所長)

ありがとうございました。ほかにご意見などありましたら、先に受け付けて、事務局から回答できるものについては、まとめて回答させていただきますので、よろしく願いいたします。

ほかにご意見等ございましたら承ります。

(筑北村 飯森村長)

取組の方向性、基本施策としていくつかは括っていただいておりますが、後ろの方には細かく出てきている部分もありますが、抑え方として入れていただいたらどうかという点を3点申し上げます。

まず、環境・景観の部分でございます。冒頭の松本地域の特性にあります、農村の原風景の維持・保全というのは押さえどころとして入れていただければどうかというのが第1点です。

第2点は産業振興・雇用の枠の中でございますが、具体策の方には出てはいますが、これからのこの地域の産業振興のキーワードである「農林業の6次産業化」について、もう少し位置付けをしっかりとされた方が良いのではないかとというのが第2点です。

それから、これはどこに入れたら良いか、いささか迷いますが、地域の伝統文化や風習を学び伝承する担い手の育成についても盛り込む必要があるのではないのでしょうか。肉を付ければいろいろあり

ますが、この3点について、とりあえず頭出しということで申し上げます。

(安曇野市 宮澤市長)

全体的に良くまとめていただいていると思います。そういう中で、先ほど松本市さんからも出ましたが、広域的な取組の中で、人口を増やしたり、産業を振興させたり、あるいは、観光振興ということとなれば、道路網の整備が大変必要となります。交通体制の中で盛り込まれてはいますが、なかなか県道などでも狭隘な道路が多く、必ずしも中信地区の道路網の整備がなされていないというのが現状だと思います。医療や福祉、観光・産業振興や人口増の課題にしても全ての基本として、道路網の整備は非常に大切だと思いますので、幹線道路と同時に地域間を連携する生活道路等の整備にも力を入れていただきたいと思います。

それから、農業振興のところで後継者育成等の課題が触れられていますが、林業についても同じように、どうしても赤字になってしまうということで、何とか誇りをもった形で林業振興ができないか、それには林業振興のための人材育成が非常に大切ではないかということで、国の補助がなければ、どこの森林組合も運営がなされていないという状況にありますので、ぜひ力を入れていただきたいと思っております。

それから、産業廃棄物の話も出ました。産業廃棄物の最終処分場については、確か県の条例で1キロ以内の皆さんの同意を得なければいけないことになっていたと思います。

一般廃棄物の最終処分場の問題については、私どもの市でも抱えているところですが、1つの地区が反対していれば、なかなか中に入れられないということではなくて、周辺の方の皆さんに賛成していただけるということになれば、もちろん全員の皆さん、各地域の皆さんの理解を得なければ建設は難しいわけですが、もう少しそのあたりの条件が緩くならないか、廃棄物の最終処分場については、県を含めたどこの自治体においても大変な課題になってくると思いますので、実情にあった形というか、そんなことが考えられないかということでございます。

(生坂村 藤澤村長)

生坂村長の藤澤です。安曇野市長さんのご意見にも若干関連しますが、最初に説明いただいたときに、松本地域の課題等として、治山・治水・砂防・生活道路の整備についての意見が挙がったという報告いただきました。しかし、その点について、重点施策でしっかり触れられていないのではないかと思います。確かに、広域防災体制・減災対策の強化ということで、若干触れられていますが、数値的なものもありませんし、確かに、財政が厳しいとは思いますが、道路整備や減災のための治山や砂防の関係もしっかりやっていただかないと、安全な生活は担保できないと思います。

それから、有害鳥獣の問題も出ていましたが、防護柵について、農政も林務も関係すると思いますが、今回の地域の元気臨時交付金の関係では、あまり事業がなさそうですが、そういうものがあれば、教えていただきたいと思います。

(麻績村 高野村長)

3点お願いします。

まず1点目は交通の関係です。ご承知のとおり長野・東京間は1時間半で結ばれています。そして、2014年には長野から金沢まで1時間で結ばれるという時代です。さて、その時に、松本・長野間62.7キロの距離を現在特急で50分、普通で77分から85分、約90分かかります。そうになると、松本から

長野へ行く時間と長野から東京へ行く時間が同じ。長野から金沢へ行く時間の方がずっと短いということになります。

今回のビジョンの中で、北陸新幹線をにらんだ中信地域へのアクセスについて、あまり謳われていないということです。篠ノ井線のスピードアップは中信地域の発展のためにどうしても必要ではないかと思えます。すなわち、北陸から、あるいは東京から中信地域へ来るには、JRで来るのが早いですが、金沢から来る場合には、中部縦貫自動車道などの構想はありますが、私に言わせるとまだそれは構想の段階のように思えます。どうしても篠ノ井線のスピードアップが大事ではないかと思えます。つい先日、この地域の市長さん方が要請をされましたが、その裏にもそんなことがあるのではないかなと思うわけです。ですから、篠ノ井線のスピードアップということをご検討してほしい。なぜ時間が掛かるかということは、私が申し上げなくても皆さんご承知と思えます。特急ですれ違いのために待っているということをやっておりますし、この辺が何とか早くいけば、中信地域への誘客がかなりできるのではないかと思えます。それと併せて、このことは防災面からみれば、つい先頃の笹子トンネルの例ではないですが、高速道に何かあって潰れると、こちらへはお客が入りません。ですから、笹子トンネルが不通のときには、上信越道へお客が大分切り替わってきたわけですね。このことが鉄道にも言えるのではないかなと思えます。中央東線に何かあったときには長野経由で来ます。こういったことも当然これから考えなければいけないと思えます。少しくどくなりましたがそれが1点。

次が地域ブランドの関係です。これは私の勘違いかもしれませんが、当然このようなことは考慮していただいていると思えますが、実はブランドというのは非常に歴史があります。実は私もよそへワインを買って行くときは塩尻ワインです。この地域にはほかにもワインありますがダメなんです。どうしても塩尻ワインでないと通用しないということです。それから、水もこの地域には沢山ありますが、安曇野の水でなければいけないとか、あるいは、安曇野のわさびでなければダメなんです。ですから、ブランドというのは、すべて「信州まつもと」にしてしまっているのかなと。これはネーミングのことですから、当然、良い言葉を考えてと思えますが。やはりその辺を、「おいしい信州ふーど（風土）」松本地域活動協議会を設置して検討していくというのですが、「Made in 信州まつもと」だけにしてしまっても本当に良いのかなと感じます。くどいようですが、ワインにすればメイドイン塩尻の方がずっと良いのではないかと私はそう思います。

それから最後ですが、やはり、これはビジョンですから、夢を持つとすれば、この地域で世界に誇れるものは何でしょう。上高地とかアルプスということになると思えますが。世界遺産登録とか、夢のようなことも考えてもいいのではないかと、ちょっとこれは夢になってしまうかと思えますが、意見として申し上げさせていただきます。

（安曇野市 宮澤市長）

今の話に関連して、公共交通の充実という面では、中部縦貫自動車道の問題や大糸線の話も出ましたが、篠ノ井線が一部複線化になっています。北陸新幹線が金沢まで開くとすれば、この近くで鉄路を使うとすれば篠ノ井線ということになります。従って、長野から松本まで時間短縮をするには、篠ノ井線の複線化についても、なかなか実現は困難かもしれませんが、今後の取り組んでいくべき課題というように捉えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

（山形村 百瀬副村長）

村長の代理で出席させていただいております百瀬でございます。よろしくお願ひします。

先程、松本市さんから、各市村が観光戦略的なことをご努力いただいているという旨の話がございました。私どもの村はご案内のように、経済的にも何から何まで松本市さんにおんぶに抱っこという形でお世話になっているところでございますが、そういう中で山形村としての観光戦略について何をやればいいのかということで、今、観光協会を中心として論議している最中であります。ただ、ほとんどないわけです。例えば、村内に清水寺というお寺がございますが、これは私どもとすれば誇れるところですが、そうは言っても、昔から百姓ばかりやっていたこういう地域で、はたして観光というのは何かというような、そんな大きな論議をしているところでございます。

県の大きな観光戦略もありますし、この松本平、それから塩尻、安曇野を一体として常に考えていくことが重要ではないでしょうか。山形村にないところを他の市村でカバーしていただいたり、また、先ほど申し上げましたが、逆に山形村にも何かあるような気がいたしますので、それをお互いにカバーしていく体制というものが需要ではないかということを感じました。ご指導をいただきたいと思えます。

(朝日村 柳沢総務課長)

代理で出席をさせていただいております、総務課長の柳沢でございます。このビジョン案につきまして、うちの中村村長、このビジョン案のとおりに進めていただければ結構ということでございますので、意見として申し上げさせていただきます。以上でございます。

(塩尻市 小口市長)

確かに全体としてよくまとまっているので、後はどんな予算を付けて、どんな体制で、どんな具現化をして、すごく進まなくても、5年後に少しは進んだなど、そういう形を担保していくことが私たちの責務だと思いますので、その辺をお願いしたいと思います。

先ほど言われた「Made in <sup>信州</sup>まつもと」について、信州の中の松本、10分の1ですよ。そういう形の「ふーど（風土）」、先ほど言われたとおり、信州というブランドは、定住したいという希望が現実が多いことを活かしていけば、信州一本で良いのではないかという気がします。松本という都市は非常にメジャーだということは周知の事実ですが、そこにまとめて「ふーど（風土）」として進めていくことが、よく言われる屋上屋、あるいは中二階、失礼な表現ですが、になってしまうのではないかと危惧が、今聞いていて、申し訳ないですけど、「ああ、そういうことなんだな」と非常に納得してしまいました。

それと、細かいところで質問ですが、私の勉強不足ですみませんが、本編の54ページに、水田の区画整理を推進と書いてありますが、今現在、行っている地域はあるのですか。

(松本地方事務所 北原所長)

あります。

(塩尻市 小口市長)

どの辺ですか。

(松本地方事務所 北原所長)

区画整理について、だいたい1次は終わっていますが、大型ほ場にしなければいけないということ

で、今、安曇野市の烏川で行われていて、これが最後の県営事業ではないかと言われているものがあります。工業団地を造成しているところの土を松本市からいただいています。

(塩尻市 小口市長)

まだあるんですね。

(安曇野市 宮澤市長)

昭和30年代に行ったのだけれども。

(塩尻市 小口市長)

やり直しなんですか。

(松本地方事務所 北原所長)

1反歩ぐらいの田んぼ区画だったのを、大型機械を入れるには1ヘクタールぐらいないとダメだということで、進めているものです。県営で行う規模の事業としては大きな事業です。

(塩尻市 小口市長)

新たに県営として始めるというところは、今のところないですか。

(松本地方事務所 北原所長)

県営規模はとりあえず烏川がもう終りに近いところだと思います。ただ、これからTPP如何では、強い農業という点から、どのようになるか分らないです。駒ヶ根市には既に2ヘクタールの田んぼができあがっておりますし、大型機械を入れるにはどうようにしていくか、あるいは、農業後継者との関係でどのように農地集約していくか、などいろいろなことが出てくると思います。

(生坂村 藤澤村長)

それに関連し、今、当村も人・農地プランの作成に向けて取り組んでいます。中山間地域ではほ場が狭くて、まだ構造改善が済んでいないところもあります。そういうところで、県営の中山間地域総合整備事業、これまた当村も2回目を実施したいということで、来年度、全村的に1回目の計画を立てて、その次にぜひ採択に向けて実施計画をということで今取り組んでいるところですが、やはりこれからやっていかないと集約できないです。担い手は高齢化していますし、不足しています。1月に10区をまわってみて、農業を守っていく、農地を保全していく大変さを感じました。そして3月に2回目の懇談会を行います。そこでプランを策定しても、今度は個人と個人の話し合いが必要で、このプランの策定は本当に大変です。今、農政課の職員の皆さんも本当に協力していただいて、懇談会にも来てくれましたし、指導もしていただいています。TPPに参加するとなれば、日本の農業、特に中山間地の農地は保全できなくなると思います。力を入れていただければと思います。

(安曇野市 宮澤市長)

1点だけ関連でお願いします。

中山間地農地の中で、県は、田中知事のときに団体営の補助率を10%から0.5%に引き下げて、村

井知事になって1%に引き上げたけれども、1%ではとても小さいところではできない。それから団体営に属さない地域も多くあり、団体営は5町歩以上だったと思うが、中山間地には5町歩まとまらないところが沢山あるわけで、財政が厳しいことはわかるが、もう少しきめ細かい施策を考えてもらわなければ、県営ほ場と比較した場合に、とても中山間地の農業を守れないので、この辺に力を入れていただきたいと思います。

(松本地方事務所 北原所長)

はい、ありがとうございました。県の補助金が付かないと国の補助が受けられないということで、全部切るのを基本として、形だけ0.5%県補助を付けたという経過がございます。

(安曇野市 宮澤市長)

県が予算を付けなければ、国も予算を付けない。田中知事のと看に。最初1000円くらいにしてくれという話だったので、冗談じゃないと言って0.5%になって、村井知事の時に1%になったんです。

(松本地方事務所 北原所長)

ただ今、いろいろご発言いただいて、ビジョンには重すぎる課題も出てきていますが、回答できるものについて事務局から申し上げます。

(松本地方事務所地域政策課 丸山課長)

事務局を務めております地域政策課長の丸山でございます。たくさんご意見をいただきました。

まず、この重点施策につきましては、ご指摘のあったとおり地域には様々な課題がございますけれども、幹事会で市村の皆様と意見交換を重ねる中で、県と市村が連携しながら取組を進めていけるであろうものを選んだつもりでございます。

これを前提といたしまして、最初に多くご意見をいただきました高速交通を含めました交通ネットワークの関係でございます。ご指摘のとおり県の北と南に新幹線ができる中、中信地区の交通問題というのは非常に大事だと認識してございます。ただ、この地域ビジョンにつきましては、県と市村が連携しながら取り組む施策という観点から考えると、なかなか難しい部分もございまして、今回の5つの重点施策の中には入れていないところでございますので、その辺のところ、よろしいかどうかご議論いただきたいと思ひます。

参考までに申し上げます、現在、県議会において審議中の県の新たな5か年計画の松本地域編においては、その中の3つ目のプロジェクトの中に「高速ネットワークの整備」という形で、中部縦貫自動道、松本糸魚川連絡道路、ご指摘のありましたJRの中央東線、中央西線、篠ノ井線、大糸線、それから松本空港、これらの高速ネットワークについて県としても広域的な取組を積極的に推進する旨を記載してあります。

それから、景観・6次産業・伝統文化の関係についてご指摘をいただきました。まだ重点施策の具体的なものをどうするかは今後のところですので、今後、細かく詰めてまいりたいと思ひます。いずれにせよ景観につきましては、定住交流の推進のほか農村や森林の部分などいろいろと関わってまいりますので、その辺のところ今後具体的に検討し推進してまいりたいと考えております。6次産業につきましても農業の振興と農村の活性化の中で、書き方がどうかというご指摘はあるのかと思ひますけれども、こちらで取り上げていくということで記載をさせていただいてあります。



それから、産業廃棄物の処理につきましては、県の指導など、その辺の問題だと思っておりますので、個々の担当課の方でしっかり対応するようにしてまいりたいと思っております。

あと、林業等につきましては、森林振興の中で書いてございますので、ご指摘の点を受けて具体的に詰めてまいりたいと思っております。

少し落ちがあるかもしれませんが、今のところ聞いた範囲ではそういうことでございまして、ご指摘の点につきましては、この5つの重点施策の分野の中で取り組めるものが多いと思っておりますので、具体的な取組については、これから担当課の方で検討し、進めてまいりたいと考えているところでございます。

(松本地方事務所 北原所長)

いずれにしてもこの松本地域ビジョンは、県と8市村でとりあえず手を付けて進められるものについて、具体的にアクションを起こしたいという意図で作っております。

今、申し上げましたとおり、新しい総合計画の中で進めるものについては、県の方にも話をして、取り入れてもらっていますし、それから交通ビジョンの中で議論をされてパブリックコメントの最中だと思っておりますが、北陸新幹線延伸を契機とした地域活性化策について、この地域も一枚絡んで話をしている最中ございまして、長野以北ができたときにこの地域の観光が取り残されないようにする方法については、県も一緒になって考えるということになっておりますので、いろいろなチャンネルを使いながらやっていきたいと思っております。

ただ、今回のビジョンの中では、とりあえず協働して進められる具体的な対応が取れているもの、特に地方事務所と市村でできるようなところから、まず顔の見える関係を作りながら、地域課題を共有して進めていこうという発想でまとめさせていただいておりますので、例えば、産業廃棄物につきましても、本当に課題が多いことは分かっているのですが、これは県がやらなければいけないとかそういう話になってきますので、市村と連携してという点からする少し難しいと思っておりますし、要望は十分承りますが、そこら辺のところがあるという話ですとか、取組の方向性については、基本施策の中で申し上げてありますが、その中で総花的ではあります、市は市、村は村、県は県の立場でやっていくものについては、それぞれ取り組んでいくということでございますので、そういう風にご覧いただいた方がよいのではないかと思います。やらないということではございませんので、これから状況に応じて、TPP如何によってはどのような状況になるかはっきりしない点多々ありますので、今の時点でとりあえず県と8市村で進められるものについて、具体的にアクションを起こしたいという思いで作ったビジョンですので、そのようにご理解いただければと思います。

(松本農業改良普及センター 小穴所長)

農業改良普及センター所長の小穴です。私の方で、食と農業の振興計画の関係について所管してまして、その中で「Made in 信州まつもと～つながる食と農 美しいふるさとへ～」というキャッチフレーズを作ったところでございます。

「Made in 信州まつもと」ということでございますが、このキャッチフレーズで地域一体となってプロモーションをしていきたいと考えております。

2月1日に「おいしい信州ふ一ど」松本地域活動協議会を設置いたしました。この中で、サインが必要かどうかも含めて検討しながら具体的な活動をしていきたいと思っておりますが、その中にメイドイン安曇野があったり、塩尻があったりしてもいいかと思っておりますが、全体として「Made in 信州まつもと」、

これはこの地域を包括する名前として、全体のプロモーションをしていきたいということでございます。屋上屋を作るとかそういうことではなくて、具体的な活動の中でお示しできればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(松本地方事務所 北原所長)

ブランド戦略につきましては、ブランド推進室の方で「信州主義」というのを掲げて、これからその中に具体的にどのような内容を盛り込んでいくか、とにかく総合的なブランド戦略を進めていかなければならないということについて、県も一緒になって考えているところでございますので、どういふ打ち出し方が良いのか、その辺りはまた検討させていただきながら、「Made in 信州まつもと」だけで全てを押し切るといふつもりではないのですけれども、食と農業・農村の松本地域の部会の中では、そういうご提案があつて、それが今日決定されているものですから、その表現を使わせていただいたということでご理解をいただきたいと思ひます。

説明になっているか微妙なところですが、他に今まで説明した中で、ご意見ご発言それから、今の説明、解説に対してご異論ある方いらっしゃいましたらご発言をお願いします。

(麻績村 高野村長)

私の話し方が足りなかつたかと思ひますが、篠ノ井線のスピードアップというのは決して県にやりなさいということ申し上げているのではございません。今回のビジョンの12~13ページにJR中央東線の高速化早期実現の話が出ています。これも全て地域住民と一体となつてやっていきましょうということ。ですからこういった文章の中に目の前にきている北陸新幹線が2014年に長野まで来るということで、もう長野市あたりは御開帳などそういうのを目指してどんどん進んでいるわけです。そうした状況にも関わらず、この地域の計画の中には中央東線など、ほかのものは出ているのですが、篠ノ井線について一言も出ていない。これで良いのですかということをお願いしたいのです。この地域としての姿勢を見せなくて良いのですか。当然、県にやりなさいということではなく、地域住民が一体となつてやらなければいけないことだと思ひます。そんなことで申し上げたところです。

(松本地方事務所地域政策課 丸山課長)

ご指摘は承つておりますけれども、広域的な部分ではなくて申し訳ございませんが、15ページに「維持・持続可能な公共交通ネットワークの充実」の中にある課題の3つ目に、篠ノ井線の利便性向上に関する記載がございます。目指す姿は地域鉄道というまとまりの形になってはいますが、取組を進めていくという趣旨で記載したつもりでございましたが、ご意見のとおり広域的な部分もございまして、もっと明確になるように事務局で書きぶりを検討させていただきたいと思ひます。

(麻績村 高野村長)

JR篠ノ井線の捉え方が少し違ふと思ひます。今、JRの考えは長野始発で名古屋という線もあるんです。長野からなぜ繋げるのかという考えは新幹線の絡みです。JRとすれば篠ノ井線はしっかりした路線であるということです。ローカル線という解釈でなく、きちんとした長距離を結ぶ路線であるという考え方で我々もいなければいけない。我々がローカル線という位置付けするのではなく、地域の大事な路線ということていくべきだと思ひます。同じことが中央東線についても言えると思ひます。

(松本地方事務所 北原所長)

その辺りは受け止めさせていただいて、我々も常に言っている話ではありません。篠ノ井線を忘れては困るという話は交通政策課に対してもしているところでもあります。下ものがJR東日本でありながら、特急を走らせているのがJR東海のしなのという不思議な路線になっているものですから、JR東日本の方に聞くと、JR東日本が特急を走らせるのは需要予測の観点から難しいという話をしました。ここら辺がなかなか難しい面もあるのかなと実は思っています。確かに言われたとおり篠ノ井線は鉄道としては幹線鉄道並みの線路の重量を持っているので、特急電車をいくらでも走らせることができるということで、ローカル線よりは遥かに上の路線ですので、それは意識してやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(麻績村 高野村長)

それから付け加えますが、既に将来を見通して新しくトンネルを改修したり、直したところはダブルの形で掘られているわけです。そういうことも含めて地域でバックアップしていくべきだと思います。

(松本地方事務所 北原所長)

ありがとうございました。少し物足りない解説と回答になっているかもしれませんが、今まで幹事会で本当にご熱心にご討議いただいて、成案を得てきたものですから、今のところを部分的に手直しさせていただいて大筋はこういう方向で、また具体的な問題点が出てくる度に幹事会等を通して話はさせていただきますが、まずは地域が一緒になって取り組んでいこうという方向性が付けられれば良いと思っておりますので、そういう意味でご了解いただければと思っておりますが、このビジョンについて原案の一部修正があるとして、概ねこの原案のとおりとしてさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございました。

それでは篠ノ井線の関係は、若干、修文させていただくということで、また修文ができあがったところでお示しさせていただきますが、これで「松本地域ビジョン」としてまとめさせていただきたいと思っております。

これから認めていただいた中で、いろいろな場面を通じてこの8市村と県、松本地方事務所ほか、管内の行政機関も一緒になって取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほどの議論の中で地域ビジョン以外の話も数多く出されましたが、せっかくお集まりでございますので、ほかにご意見やご提言など、県行政に対してでも結構ですのでございましたら、ご発言をいただきたいと思っております。

(生坂村 藤澤村長)

先ほど少し触れさせていただきましたが、有害鳥獣の防護柵について、来年度の見通しはいかがでしょうか。

(松本農業改良普及センター 小穴所長)

農政課長を兼務しております。25年度の予算の中で、鳥獣被害防止総合対策交付金が国から105億円ほど予定されています。その中で、十分対応できていると思っておりますが、いかがでしょうか。

実は、今年も東日本の交付金の中で、本県に15億円ほど持ってきましたが、実際には8億円余しか使われなかったという現実があります。そういう中で、24年度単年度で、管内においては95キロくらい整備できたということもあります。残り僅かになっているのではないかと思います。要望があれば挙げていただければと思います。

(生坂村 藤澤村長)

ありがとうございます。

どうしても、人・農地プランの農業懇談会の時に、有害鳥獣の被害により耕作意欲が減退してしまうという意見がアンケートの中でも1位・2位を占めていましたし、また、今回も設置したいという地区があったものですから、いい機会でしたので質問させていただきました。ありがとうございました。

(塩尻市 小口市長)

細かいことで申し訳ないですが、本文58ページにある県産材の定義について、私が今まで間違っているのかと思うのですが、素材と県産材は同じですか。また供給材という、あまり聞いたことのない言葉が出ています。

例えば、保育園で県産材を使うと補助金があります。塩尻市でも榎川保育園で大変お世話になったのですが、そこで使用した材は、県の加工所で加工した材料であって、必ずしも長野県の材木ではなく、もっと搬出コストの安い九州や四国から持ってきた材であるという人がいるんですが、それが正しいかも含めて、この文のとおりだと“集中型加工施設の整備により県産材の需要を飛躍的に拡大する”というのは原料のことを言っているのだらうと思うのですが、私たちのこれまで捉えてきた県産材というのは、大工に渡される製材工場から出た材を言うのであって、素材のことは言っていませんでした。私の考えが違ったら、直さないといけないという意味で聞いているのですが。これで確定するなら、そこを分かる形にしておいてもらえれば良いです。

(松本地方事務所 北原所長)

分かりました。キャプションなり、説明を入れるようにします。

(塩尻市 小口市長)

“県産材の需要が飛躍的に拡大する”とありますが、県産材の需要は製材所を作っても拡大しないのではないかと思います。原料の需要、運び出す材の需要は拡大しますよね。

(松本地方事務所 北原所長)

今回のF・POWERプロジェクトに関しましては、県の林業生産団地をどう構成していくかということも含めて、優良材はそこへ運び込んで加工するというので、素材生産量としても県ではアカマツを十分賄えるくらいになってきていますので、他から運ばなくても持ってこられるような林業経営団地の作成などの検討会議を来年度からやらせていただきますので、基本的には県内の素材であれば良いと思っています。

逆に、認定基準が厳しすぎて、県の材木を使っているのに県産材と言ってもらえないという話も別のところから出てきていまして、そこら辺のところも含めて、林務当局にはいろいろお願いしているところですよ。

(塩尻市 小口市長)

用語の使い方を、統一しておいて欲しいということなんです。

(松本地方事務所 北原所長)

わかりました。そのあたりについては、確認させていただき、最終的に確定できればと思います。どうもありがとうございました。

(筑北村 飯森村長)

このビジョンを実現していく過程において、当然、人・モノ・情報などの資源を導入していく必要がありますが、その場合に、ここ1年位の流れでいきますと、県の元気づくり支援金を、基盤の弱い、特に村などの施策に相当程度前向きにご援助いただける方向で制度設計の合意がなされつつあると受け止めているのですが、その延長で、現在の村の域を超えて、近隣の村若しくは市と連携プロジェクトを組んで進めた方が、はるかに良い仕事ができそうな分野があるわけですが、県と松本地方事務所若しくは該当の市村が協働して行うという流れでいった場合に、1つは、元気づくり支援金のような比較的使いやすい制度が、複数の行政団体が連携して提案する場合でも、きちんとサポートいただけるような形にさせていただけるとさらに使いやすくなると思います。

もう1つは、少し質の高いプロジェクトになりますと、われわれのような村では企画的パワーが不足している面があるので、例えば松本地方事務所の担当課または関連団体の皆様に一緒にプロジェクトに入っただいて、マンパワーの面からご支援いただけるようになると、更にスムーズに行くのではないかと思います。今後の具体策の中でできるだけご考慮いただければ有り難いと思います。

(松本地方事務所地域政策課 丸山課長)

元気づくり支援金のお話をいただきました。これまでも制度上では、複数の町村や県が入った実行委員会でも申請が可能で、今までもいくつか、規模は小さいですが、選定したプロジェクトがあります。このような県と市町村が連携して行う取組みについては、これまで上手く進まない面もありましたので、このビジョンについては作って終わりではなくて、特に重点施策については、地方事務所や県の現地機関、市村の皆様とともに何をやっていけば良いか話し合いたいと思いますので、そういう中で、できるだけ連携のプロジェクトを作っていきたいと思っています。その場合の財政的支援のツールの1つとして元気づくり支援金を使っていければ良いと思っています。

また、元気づくり支援金につきましては、来年度に向けて、市長会、町村会の皆様と県の市町村課の方で、見直しを行って参ったところですが、話しの中で市町村事業については、もう少し率が増えても良いのではないかとのご意見もいただいておりますし、市町村課長もその旨を話していますので、そういった意味では、こういったプロジェクトがどんどんと出来てくればと思っています。

さらに、地方事務所ごとに支援金の選定方針を定めていますが、26年度以降、ビジョンに掲げる県と市村が連携して行う事業につきましては、重点的に採択するようにする旨を選定要領に入れることも考えてまいりたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

(松本地方事務所 北原所長)

予定した時間になりましたが、特にご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日は様々なご意見をいただきました。いただいたご意見につきましては整理しながら、地域の熱い思いが込められていると思いますので、地域ビジョンに関わらず、ない部分についても積極的に地方事務所としても取り組んでまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

また、今後地域ビジョンに掲げた施策につきましては、幹事会の間などを通じて具体的に推進していくこととなりますが、引き続き、市村の皆様のご理解ご協力をお願いしまして、本日予定された議題を終了させていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

#### 4 閉会

(松本地方事務所 小林副所長)

これもちまして、本日の松本地域戦略会議を終了させていただきます。

なお、本日お手元に参考資料として「地方事務所長からの施策提案への対応状況」というものをお配りしてございます。こちらは、平成 25 年度県の当初予算案とともに公表された 2 月 8 日付の資料でございます。4～5 ページに、松本地方事務所より提案をいたしました 2 つの施策「松くい虫被害対策のための未利用アカマツ資源の利活用促進事業」、「山岳観光推進のための登山者安全対策基盤整備事業」がございまして、資料の中に、提案の内容とその対応状況について記載のとおりとなっております。それぞれこの 2 つにつきましては、25 年度の当初予算案に盛り込まれているところでございますので、ご参考までにご覧ください。

それでは、冒頭にも申し上げましたとおり、本日の議事録につきましては、後日、地方事務所のホームページに掲載する予定としております。掲載前に皆様にご確認いただきたいと思っておりますので、その際にはよろしくご協力をお願いいたします。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

(終了)